

# 大雪山・旭岳 & 富良野岳山行報告

【山行日】2018年 7月 14(土)～16(日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー&飛行機&レンタカー  
86,000円

【メンバー】CL: 鈴木ユ、石川、岩淵、大西、島田、  
松館、渡辺

7月14日(土) 羽田空港から千歳空港に飛び、  
レンタカーで旭岳 RW まで行き旭岳に登る。

岩舟支所 4:00=つばさ P5:30/5:50=羽田空港

6:00/7:00→新千歳空港 8:40/8:50=レンタカー

9:30 = 旭岳 RW 山麓駅 12:30/12:45+++ 姿見駅 13:00～旭岳山頂 14:35/14:50～姿見駅

16:15/16:30+++旭岳 RW 山麓駅 16:45/16:50=民宿「とだて」18:40

北海道の大雪山に登りたいというリクエストがあり、十勝岳と併せて海の日の連休に計画した。  
連休なのでお勤めの方達も参加できるだろうと計画したが、仕事を持っている方の参加は少なく4



名がリタイア組であった。いつものように羽田空港手前のパーキングに車を預け、バスで羽田空港まで送ってもらう。空港で搭乗の手続きをするが、手荷物預けが自動化され中々思うように操作できず、係の方に助けてもらい何とか完了する。搭乗口前のイスを確保し、売店で朝食を買って出発前にいただく。航空チケットの販売が年々早くなり、4ヶ月前にネット購入を試みるが旭川空港便は満席でゲットできなかった。仕方なく新千歳空港便のチケットを購入し、レンタカーで登山口まで移動することに

した。予定より少し遅れて新千歳空港に到着し、ニッポンレンタカーで車を借りて大雪山へ向かった。

天気があまり良くない予報で、特に黒岳から旭岳に縦走する15日は雨の予報になっていた。今日はまずまずの天気なので、明日の縦走は諦め姿見から旭岳にピストンで登ることに変更する。新千歳空港ICから道央自動車道に乗り、旭川鷹栖ICまでの165Kmを高速で飛ばして走って行く。運転手はハンドルを握っているだけで、行き先は頭がないので気が抜けない。ナビの案内も聞かないのでJCTは間違い無いように声をかけ指示する。旭川鷹栖ICで高速を降り、旭岳RW駅に向かう。



途中、コンビニ「セイコーマート」で昼食を購入し、車中で昼食を済ませる。道道160号線に入ると真っ直ぐな道になり、車も信号も少なくとても走りやすい。何とか12時30分にロープウェイ山麓駅



に着き、登山の準備をしてロープウェイに乗り込む。姿見駅に着きストレッチを済ませたら出発する。13時にスタートし、コースタイムは登り2時間50分、下り1時間35分なのでぎりぎりのスタートだ。

旭岳石室までは全員で登り、ここから健脚組4人が先行して登る。シルバー隊はすでに登っているので無理して山頂を目指さない。ガスが掛かり見通しは良くないが、時折ガスが晴れ地獄谷の噴煙や山頂方面が見える。登りは火

山灰と火山礫のコースで、花も少なくただひたすら山頂に向かって登って行く。登るにつれガスが晴れる時間が長くなり、周囲の景色が見えるようになってくる。金庫岩と言われる大きな岩で休憩を取ると、もう山頂が目の前に迫っている。頑張っ最後の急坂を登ると、北海道の最高峰旭岳の山頂に出た。山頂に着くと青空になり間宮岳への縦走路から北鎮岳、東には白雲岳等が見渡せ眼下には地獄谷の爆裂口が凄まじい。1時間以上早く着いたので、シルバー隊に「山頂に着いたよ～そんなに時間は掛からないから登って来て」とTELを入れたが、途中から下り始めているとの事。早く着いたので、景色を楽しみながらトマトや菓子を食べるのんびり過ごす。黒岳方面を見ながら、「明日天気良ければ、向こうから縦走して登って来るんだよ」と言いながら写真を撮る。景色を楽しんだら、姿見駅



に向かって下山する。火山礫に足を取られないよう、慎重に下って行き、石室の先から姿見ノ池に向かって右折し反時計回りで姿見園地を散策する。姿見ノ池越しに眺める地獄谷から旭岳は、とても



雄大でいかにも大雪山と言う景観だった。噴気活動展望台も地獄谷の噴気孔が間近に望め、皆さん大満足の様子。遊歩道に入ると高山植物の花が道の両側を埋め尽くし、エゾツガザクラやアオノツガザクラ、エゾノコザクラ、チングルマ、イソツツジ等々の花が迎えてくれる。花を楽しみながら歩き、夫婦池の先で左折すると間もなく姿見駅に着く。レストハウスで休憩し、土産や登山バッチを購入したらロープウェイで山麓駅に降りる。ここから層雲峡温泉にある今

宵の宿「とだて」に向かった。旭川まで戻り国道39号線を通り、層雲峡温泉の宿「とだて」に着いた。

「とだて」は素泊まりの民宿で、民宿内の食堂でも食事ができるが到着が遅く食堂は終わっていた。しかし温泉の黒岳の湯が隣接し、宿の通路から温泉に行けるし、ラーメン屋やイタリアンも外に出なくて行け、とても便利なところだ。早速温泉に浸かり、女性達はラーメン屋で夕食を食べ、男性陣は隣のセイコーマートで酒とおつまみや食事を買い、部屋で宴会が始まる。

お酒が無くなったらお開きになり、布団を敷いて床に就いた。

**7月15日(日) 層雲峡の銀河の滝・流星の滝を見てから旭山動物園を見学し、旭川地ビール園でジンギスカンを食べ、青の池を見学後今宵の宿の吹上温泉「白銀荘」へ**

「とだて」8:00＝層雲峡 P8:10/8:30＝旭山動物園 9:20/11:00＝旭川地ビール園 11:30/12:15＝道の駅びえい「白金ビルケ」13:30/14:00＝青の池 14:10/14:40＝白銀荘 15:00

朝5時に起き、すぐに窓を開けて空模様を見ると天気予報通り雨が降っていた。昨夜皆に伝えたが、



雨の場合は観光に変更し8時に出発する予定。隣のセイコーマートに行き、朝食を各自購入し談話室で朝食を食べる。8時に宿を出て層雲峡に向かい、宿から10分くらいで駐車場に着く。層雲峡は大雪山の北側に位置し石狩川が刻んだ溪谷で、断崖絶壁から滝が落ちる北海道を代表する景勝地である。石狩川に沿って遊歩道が整備され、まずは落差90mの流星の滝を見学する。

そしてその先に落差120mの銀河の滝が白糸のように岩壁を伝って流れ落ちる様は圧巻である。小雨が落ちているので早々に引き揚げ、次の予定地旭山動物園へと向かう。旭山動物園正門の駐車場に車を止めるが、すでに車が並んでおり係員の指示に従って車を止める。歩いて行くと入場口は長蛇の列が出来ており、入場券を購入し列の後ろに並んだ。10分くらいで入場出来、フラミンゴやとりの村は見ながら通過し、まずはペンギン

館を見学する。旭山動物園の展示は、旭山スタイルと呼ばれるほど画期的で、水槽の底から泳ぐペンギンを見ることが出来、オッサンやオバハンでも夢中になって楽しめる。次はアザラシ館に移動し見学するが、ここも筒状になった水槽をアザラシが次々に通り抜け、間近にアザラシが見られるように工夫されていた。そして！ 瀏さんが一番喜んだのがホッキョククマ館だ。館内にある大きなプールは、水族館のように横から眺められる設計になっている。飛び込んだり、水中を泳ぐホッキョククマのダイナミックな動きが見られ大興奮。レッサーパンダ館やオランウータン館なども独特の動きが見られ面白かったが、雨が強くなり各動物館への移動が大変になる。まだ沢山見どころがあるが、あきらめて車に戻ることにした。昼食は何を食べたいか聞くと、若い二人が「旭川地



ビール園」でビールを飲みながらジンギスカンを食べたいと言うので、旭川ビール園に向かう。旭川駅の近くにあるが、駐車場の入口が解りにくい。ネットで調べると超人気店のようだが、我々がに入った時は客が少なかった。二階の席に案内され地ビールとジンギスカンのセットをオーダーする。



ビールは美味しく、ラム肉も柔らかくビールにとても合う。I&I コンビもニコニコ顔でビールを追加し、ジンギスカンを頼張っていた。ビール園から宿に向かうと言ったら、途中に「青い池」があるから寄ってほしいとリクエスト。10年前まではそんな池聞いたことが無かったが、最近は超人気スポットらしい。美瑛町のスーパーに寄り、夕食と明日の朝食や昼食を購入する。青い池手前に今年オープンした道の駅があり時間があるので寄ってみた。道の駅びえい「白金ビルケ」で、レストランやアウト

ドアブランド「THE NORTH FACE」、ハンバーガーショップなどがあつた。

ザ・ノースフェイスに入ってみたが、我々が買いたいものは無かつた。道の駅の1Km 位先に青い池の駐車場があり、観光バスや車が沢山止まっていた。駐車場から500mくらい歩くと青い池があり、神秘的な青い池に多くの観光客が見学していた。

青い池は昭和63年に噴火した十勝岳の火山泥流災害を防止するために、美瑛川に作られた堰堤の一つだった。防災工事の過程で副産物として複数の人造池が生まれ、其の一つの池に自然が引き起こした奇跡が起きた。近く的美瑛川に岩肌を伝って流れ落ちる「白ひげの滝」があり、この滝は十勝岳を源流に地下を通して崖の途中からアルミニウムが混ざった状態で美瑛川に注ぎ込んでいる。このアルミニウムによって、



美しい「青い池」が誕生したようだ。美しい池を見ると、我輩の汚れた心がきれいに浄化されたように思えた。ここから今宵の宿、吹上温泉「白銀荘」に向かう。白銀荘は自炊の温泉宿泊施設で、温泉にいつでも入れ食堂の隣には炊事場もある。受付を済ませ、係の人に管内の案内と注意事項を受け部屋に案内される。我々の部屋は二段ベットだが、一人ひとりカーテンで仕切られ快適に眠れる。早速温泉に入り、全員が揃ったら食堂へ移動し宴会が始まる。各自、自分で買った酒や食事を食べながら、明日の山行を心配していた。天気予報は曇りだが、山頂付近は風がかなり強い予報になっていた。明日は3時に起床し、4時に出発と指示し早めに床に就いた。

**7月16日(月) 雨の為十勝岳登山を諦め、2班に分かれ A 班は富良野岳登山、B 班は富良野のラベンダー畑見学とお買い物。その後、新千歳空港から羽田空港に飛び帰宅する。**

白銀荘 7:50=富良野岳登山口 P8:20~上ホロ分岐 9:10~富良野岳分岐 10:20~富良野岳  
11:10/11:20~お花畑 11:40/12:10~富良野岳分岐 12:30~上ホロ分岐 13:20~富良野岳登山口  
13:50/14:20=ニッポンレンタカー17:05/17:15=新千歳空港 17:30/19:30→羽田空港 21:10/21:40=  
つばさ P22:05=岩舟支所 P23:30

朝3時に起き、外に出ると霧雨が降っていた。とりあえず食堂に行き、朝食を食べて出発の準備をする。裏口から外に出て玄関前でストレッチをしようとするが、霧雨に皆さん腰が引けている。

4時過ぎに天気予報を確認すると、午前中は0.4mmの雨で10m以上の強風の予報になっていた。



とりあえず5時まで様子を見ることにし、館内のロビーで待機する。5時過ぎても状況は変わらず、登山は中止にし富良野観光に変更し8時出発にした。皆さん温泉に戻ってきたが、健脚組は何か山に登りたそう。富良野岳の天気を見ると、曇りで風も強いが10m以下の風の予報。

霧雨も少し弱くなってきたので、健脚組は富良野岳に登ることにする。十勝岳温泉の登山口まで送ってもらい、富良野岳に向かって登り始める。

シルバー隊はこの後富良野観光に向かい、ファーム富田等のラベンダーを見学する。登山口から広い林道をしばらく歩き、山道に入る。沢沿いに登山道を進み、安政火口手前でヌッカクシ富良野川を渡り、上ホロ分岐に出る。右に富良野岳に向かって進み、三峰山の山腹をトラバース気味に登って行く。ガスが掛かって視界は良くないが、登山道脇には様々な花が目を楽しませてくれる。途中、

雪渓を歩くが今にも崩落しそうな雪の上を慎重に歩いて行く。沢を渡り木の階段を登ると緩やかな道となり、お花畑が広がっている。エゾツガザクラやアオノツガザクラ、エゾコザクラが群生し先客が写真を撮っていた。その方は昨日も雨の中ここまで登り、花々を写真に収めたそうだ。今日はもっと天気が良くなり、良い花の写真が撮れるだろうと登って来たそうだ。

この先稜線に登った所が十勝岳への縦走路分岐で、右に進み富良野岳山頂を目指す。稜線に出ると風が強くなり、メガネが曇り前が良く見えない。それでも登山道の両側にお花畑が広がり、さすが花の百名山と歓声上がる。エゾコザクラやエゾノハク



サンイチゲ、チシマノキンバイ、エゾノツガザクラ

等々素晴らしいお花畑が広がっていた。晴れていたらどれだけ素晴らしいのだろうと想像しながら、急な坂道を登って行く。お花に励まされながら一歩一歩登り、予定より早く山頂に着いた。風は思ったよりも強くなかったが、相変わらずガスが掛かり眺望は得られない。

山頂で記念写真を撮り、ミカンを食べて体を休めたら下山する。途中のお花畑の風が当たらない場所でランチタイムとし、各自持ってきたランチを



いただく。エゾノハクサンイチゲやチシマノキンバイの花に囲まれながら至福の時間を過ごし下山

する。下山は来た道に戻るが、ぬかるんだ登山道に苦戦し思ったより時間がかかる。

約束の2時よりも15分早く下山し、十勝岳温泉稜雲閣で温泉に浸かり汗を流す。

O嬢が冷たいメロンを用意してくれ、渴いたのどには最高に美味しく感じた。感謝、感謝！

ここから富良野に向かい、国道237号線を南下し占冠 IC から道東自動車道に入り新千歳のニッポンレンタカーを目指す。予定通りニッポンレンタカーに着き、新千歳空港に送ってもらいフライトの手続きを済ませる。この日羽田空港の滑走路に穴が見つかり、滑走路が使えないアクシデントがあり出発時間が遅れた。待っている間に夕食を食べ、お土産を購入する。予定よりも1時間遅れて出発し、1時間遅れて羽田空港に到着した。パーキングの送迎バスで駐車場に着き、車に荷物を積み替え岩舟支所に向かう。首都高や東北道は順調に走り、無事に岩舟支所駐車場に帰着した。

荒天の影響で予定通りの山行が出来なかったが、最低限の登山は出来たので良かったのかなと思った。